

## 第2期ロジスティクス環境会議 第7回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2008年1月28日（月） 15：00～17：30

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：22名

IV. 内 容：

- 1) 研究会、委員会の活動内容について
  - (1) グリーン物流研究会
  - (2) グリーンサプライチェーン推進委員会
  - (3) CO2削減推進委員会
- 2) 第2期の総括について
- 3) 第3回本会議について
- 4) 第3期活動について

V. 開 会

事務局の徳田専務理事より開会が宣され、「グリーンロジスティクスガイド」の発行の報告、及び本ガイドの検討を行なった「手引き検討WGメンバー」への謝辞が述べられた後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

1) グリーンロジスティクスガイドの発行等について

事務局より、資料1-1に基づき、「グリーンロジスティクスガイド」の配布状況、及び第2版の発行について説明がなされた。

2) J I L S 会員研究会について

事務局より、資料1-2に基づき、「グリーンロジスティクスガイド」の普及等を目的として開催する「J I L S 会員研究会」について説明がなされた。

VII. 議 事

1) 研究会、委員会の2007年度活動内容について

(1) グリーン物流研究会

事務局より、資料2-1に基づき、グリーン物流研究会の活動方針、2007年度活動内容について説明が行われた後、同研究会の幹事である下村委員より、①各委員の協力により全13回の研究会が終了した、②活動報告書を作成し、メンバーに配布する旨の説明がなされ、了承された。

(2) グリーンサプライチェーン推進委員会

i) 取引条件分科会

事務局より、資料2-1に基づき、グリーンサプライチェーン推進委員会の活動方針、及び取引条件分科会の2007年度活動内容について説明が行われた後、アウトプットの構成等で課題があり、2月1日（金）開催の第8回幹事会、及び2月18日（月）開催の第11回取引条件分科会で検討を行なう旨の説明がなされ、以下の意見交換が行われた後、了承された。

【主な意見】

副委員長：アウトプットのタイトル案が“多頻度小口配送削減による”となっているが、“多頻度

小口配送対応のため”の方が適切だと考える。

幹事：ご指摘のとおりである。なお、タイトルについての検討は行なっていないため、第8回幹事会で提案したいと考える。

## ii) 源流管理分科会

事務局より、資料2-1に基づき、源流管理分科会の2007年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の副委員長である菅田委員より、様々な業種において使用できるような客観的な評価軸項目の策定で想定よりも時間がかかっているが、1月30日（水）開催の第11回源流管理分科会で未策定項目を確定させる予定である旨の説明がなされ、了承された。

## (3) CO2削減推進委員会

### i) 活動内容について

事務局より、資料2-1に基づき、CO2削減推進委員会の活動方針、2007年度活動内容について説明が行われ、了承された。

### ii) 提言内容について

#### ① 改正省エネ法に関する提言

事務局より、資料2-2に基づき、改正省エネ法に関する課題について説明がなされた後、資料2-3に基づき、改正省エネ法に対する提言内容の全体構成の説明がなされた。続いて、資料2-4に基づき、改正省エネ法に関する提言内容の説明がなされた後、同委員会の委員長である増井副委員長より、提言内容の一部項目についてはすり合わせが必要である旨の説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

#### 【主な意見】

委員：提言2の4)については、CO2単位であっても、原油換算値を計算しなければならず、算出の負荷は変わらないと考える。また、提言2の2)の欄外にあるとおり、CNG車の導入により、エネルギー使用量ベースでは削減できないケースは想定され、その場合はCO2単位での削減効果を評価いただきたい旨の提言を出してはどうかと考える。

副委員長：ご指摘のとおりであり、ぜひ検討したい。

委員長：提言案の今後の取扱について教えていただきたい。

事務局：2月初旬に所管省庁の担当者と打ち合わせを行い、内容等の確認、修正等を行なった後、2月15日（金）開催の第12回CO2削減推進委員会で最終案を審議し、確定する。その後、杉山委員長にご承認いただいた後、3月11日（火）開催の第3回本会議で提案する形で進めたいと考える。

#### 【決定事項】

- ・ 第12回CO2削減推進委員会で最終案を審議し、確定した内容を、杉山委員長にご承認いただいた後、第3回本会議で提案することとする。

#### ② モーダルシフト推進に関する提言

事務局より、資料2-5に基づき、モーダルシフト推進に関する提言について説明がなされた後、CO2削減推進委員会の副委員長である高松委員より、提言先であるJR貨物と2月初旬に打ち合わせを行い、提言内容の確認を行なった後、第12回CO2削減推進委員会で最終案を審議する旨の説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

#### 【主な意見】

委員長：現在の提言内容は、JR貨物が実施可能な内容かどうか教えていただきたい。

委員：JR貨物は、昨年7月にアクションプランを出しており、鉄道へのモーダルシフトを推進するための前向きな検討を進めていると考える。今回の提言は、それらに付け加えてもら

える内容だと個人的に考える。

**【決定事項】**

- ・ 改正省エネ法に関する提言と同様のプロセスを経て、第3回本会議で提案することとする。

2) 第2期活動の総括について

事務局より、資料3-1、3-2に基づき、第2期活動の総括(案)について説明が行われた後、資料3-4に基づき、今後の課題(案)について説明がなされた。主な意見は以下の通りである。

**【主な意見】**

(資料3-1の位置づけについて)

委員長：資料3-1、3-4については、本会議で報告するのか教えていただきたい。

事務局：資料3-1、3-4については、本会議の報告事項となる。

委員長：資料3-1の3ページ目に総括がなされているが、単に「成果物を作成した」だけではなく、図表1で整理した「ロジスティクス環境宣言」を踏まえた成果や資料3-4で掲げた課題等の内容も含める必要があるのではないかと考える。

(成果の普及について)

委員：第1、2期を通じて有用な成果物が作成されたと考えるが、本会議での報告時間はわずか10分しかない。別途それらの報告の機会を設けていただくことをご検討いただきたい。また、CGLメンバー以外の産業界全体への普及という点が、不足しており、それらもご検討いただきたい。

委員：「環境会議に参加し、このような情報を入手し、それらをこのように展開した」といったことが、総括の中に含まれるとたいへん有意義だと考える。

事務局：「グリーンロジスティクスガイド」の発行後、複数のメンバーから「自社営業所に配布した」、「協会会社への勉強会のテキストとして使用した」といった声が寄せられた。他部署や関係会社等へ展開しやすいような形での情報提供といったことも、普及の一方策として有効だと考える。

委員長：「環境会議の成果物を社内に展開していただく」といったことは大きな成果だと考える。

委員：環境会議の成果物から切り取った情報や、トラック車両別の燃費値の分布の把握といった情報をメールマガジンに掲載することで、環境会議の成果をメンバー以外にも広げていくことが必要だと考える。

(その他の意見)

委員：グリーン物流研究会でもアンケートは実施しているが、あくまでも参加されている方の意見であり、参加しない方の考えまでは把握できていない。参加企業を増やすとともに、既に参加している企業への意識づけといったことも必要になるのではないかと考える。

委員：メンバーの拡大が難しいのであれば、メンバーのレベルアップということも重要な活動の一つになると考える。

委員：第1、2期では主として道具の準備となったが、第3期については、CGLへの参加前と比べて、“このような活動ができるようになった”、“このような成果があった”と感じてもらえるように工夫すべきだと考える。

**【決定事項】**

- ・ 本日いただいた意見を踏まえて、資料3-1の総括を修正し、第3回本会議で報告することとする。

3) 第3回本会議について

事務局より、資料4に基づき、第3回本会議の次第(案)について説明がなされ、了承された。

4) 第3期活動について

事務局より、資料5-1に基づき、第1期からの変遷と第3期活動のイメージ（案）について説明がなされた。続いて、資料5-2、5-3、5-4に基づき、第3期の企画概要（案）、研究会、委員会の検討テーマ（案）、スケジュール（案）について説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

なお、杉山委員長が所用により退席され、以降の議事については増井副委員長の司会により、執り行われた。

#### 【主な意見】

（第3回本会議での提案について）

委員：第3回本会議の議事において、第3期についても自動継続していただきたい旨の提案を行い、具体的なテーマについては申込時等にアンケートを実施し、別途4月に検討してはどうかと考える。

副委員長：検討テーマについては、参加する企業の意見を聞いて決める必要があることから、ご提案いただいたやり方で進める方が望ましいと考える。ただし、第3回本会議の議事の中では資料5-3に掲げた内容を検討テーマ案として紹介することは問題ないとする。

（「持続可能社会」への語句の変更について）

委員：資料5-2等で「循環型社会」という語句を使用しているが、「循環型社会」とすると、一般的には「資源循環」のみと捉えられ、「CO2削減」の概念が含まれないと考えられる。したがって、「持続可能社会」といった用語に変更してはどうかと考える。

委員：グランドデザインを制定した5年前は、まだ地球温暖化問題による危機が叫ばれていなかったこともあり「循環型社会」という語句を用いたが、現状を勘案すると「持続可能社会」の方がふさわしいと考える。

委員：環境宣言の文言にも「循環型社会」といった用語があり、変更する場合は、これらの変更も検討する必要があるのではないかと考える。

副委員長：少なくとも、今後、作成するものについては、「持続可能社会」といった用語を用いてはどうかと考える。これらについても、第3回本会議で提案してはどうか。

（第3期の活動について）

委員：資料5-3で9つほどテーマをあげているが、すべてのテーマに取り組むのかどうか教えていただきたい。

事務局：現状を考えると、第2期と同様に「1研究会+2委員会」で実施したいと考える。

委員：第3期の活動期間が2010年3月までとなっているが、その先の将来を見据えたロジスティクスのビジョンといったものの検討を行なってはどうかと考える。

委員：「持続可能社会」への語句の変更等も含め、第3期活動の中で、グランドデザインの見直しといった活動を行うことも一案ではないかと考える。

委員：取引条件分科会で進めている共同化の深堀といったことを検討テーマとして考えているのか教えていただきたい。

事務局：現在、加工食品をモデルとして、メーカー、卸、小売のメンバー検討を進めてきた。その結果、共同化の案はできつつあり、実証を行う段階に近いと考える。したがって、環境会議としては残った課題である「リードタイム」について研究してはどうかと考える。

委員：ツールの作成等は第1、2期で十分進めていると考えられるので、第3期については、活動に取り組んでいただけるような仕掛けづくりを行なうための組織体制づくりも検討いただきたい。また、第3期終了時にそれらが完了し、環境会議の様な会議体としての活動を終了することが望ましいと個人的に考える。

#### 【決定事項】

- ・第3回本会議の議事の中で、第3期の自動継続について提案することとする。また、第3期の具体的な検討テーマの内容については、第3期申し込んだメンバーにアンケートを実施した上で決定することとする。
- ・第3期検討テーマ案については、本日いただいた意見を踏まえ、事務局で再度検討した上で、上

記アンケートを実施することとする。

- ・第3期の企画概要の中では、「持続可能社会」といった語句を用いることとする。

#### 5) その他

##### 【主な意見】

事務局：下村委員より書籍の発行についてのご提案をいただいた。

副委員長：説明資料等がない中では議論できないことから、再度ご提案いただきたい。

#### VIII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、増井副委員長は閉会を宣した。

以 上